

Special Educational Needs that Focused on the Characteristics of
Twice Exceptional Children

Marie MATSUMOTO, Kanako KORENAGA

2 E の子ども の特性 に注目 した 特別な 教育的 ニーズ

松本 茉莉衣 ・ 是永 かな子

論文

2Eの子どもの特性に注目した特別な教育的ニーズ

Special Educational Needs that Focused on the Characteristics of Twice Exceptional Children

松本茉莉衣 (高知大学大学院)¹

是永かな子 (高知大学教育学部・高知発達障害研究プロジェクト)²

Marie MATSUMOTO¹, Kanako KORENAGA²

1, Graduate School of Integrated Arts and Science Kochi University

2, Faculty of Education, Kochi University · The Research Project on Kochi Developmental Disabilities

ABSTRACT

We analyzed special educational needs of gifted children. I focused on 2E (twice exceptional children). First, we considered about similarities between gifted and ADHD / ASD on characteristics and problems. Next, we showed special educational needs of gifted/ADHD 2E and gifted/ASD 2E. About gifted/ADHD 2E, we focused on differentiation between gifted and ADHD. About gifted/ASD 2E, we focused on asynchronous development. As a result, the followings were cleared. Children with ADHD and ASD had characteristics and needs similar to gifted children. In the case of disorders are over looked, it has negative influences social and emotional developments. About gifted/ADHD 2E, it is necessary to focus on different backgrounds when compensate for the needs. About gifted/ASD 2E, it is necessary to focus on lower social and emotional development than others when compensate for the needs.

1. 問題の所在

ギフテッドとは、優れた能力をもつ子どものことを指し、多くの専門家がその定義を、いずれかの能力で IQ130 以上を示す子どもたちであると認識している¹。ギフテッドのもつ特別な教育的ニーズとしてかつて指摘されてきたのは、通常のカリキュラムでは退屈で適応できずかえって学業不振に陥るといった高い能力による学習的ニーズであった²。それに加え、ギフテッド教育の先進国であるアメリカでは、1900 年代初頭からギフテッドのもつ心理的ニーズに対するカウンセリングの必要性についての議論が始まった³。アメリカのギフテッドの代表的なネットワークである NAGC (National Association for Gifted Children) も、カウンセリング・ネットワークを構築しており、ギフテッドの心理的ニーズに対する補償的な指導を行っている⁴。

1990 年代からアメリカで注目され始めたのが 2E に焦点を当てたプログラムの開発である⁵。2E とは、ギフテッドでありながら ADHD や ASD、学習障害においてみられる能力の偏りをもつグループである⁶。松村はギフテッドの子どもは特有の社会・情緒的な不適応の問題が生じやすく、とくに 2E の子どもたちの存在を認識することが大切であると述べている⁷。加えて松村は、スーザン・バウム (Susan Baum) を引用し、2E は障害が才能を隠す、もしくは才能が障害を隠すことによって、通常の教育では生まれ持った才能をいかすことができないという教育的ニーズを抱えていると述べる⁸。また、小倉も 2E の子どもは伸ばすべき特性に気付かれないうままに過ごす可能性が高く、適切に対応されないことによって二次的な問題が生じる可能性も高いと述べる⁹。こういった 2E の子どもたちを見逃さないようにすることが、ギフテッドのもつ特別な教育的ニーズに対して補償的な教育をしていくためには必要であることが分かる。

よって、本論文では、ギフテッドがもつ特別な教育的ニーズに関してとくに ASD、ADHD を併せもっている 2E に焦点を当てて検討する。

2. 研究の方法

今回は文献検討を行った。ギフテッド教育の研究を推進するアメリカのコニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク国際ギフテッド教育・能力開発センター (The Connie

Belin & Jacqueline N. Blank International Center for Gifted Education and Talent Development) が HP 上で紹介している文献を主に参考とした。また、上記のセンターの創設者の一人である Colangelo が新しい時代におけるギフテッドのカウンセリングニーズのマーカールであるとしている¹⁰、『The Social and Emotional Development of Gifted Children: What Do We Know?』を文献として使用した。

3. 結果

3.1 ギフテッドの特性及び起こりうる問題と ASD、ADHD との共通性

1981 年に SENG (Supporting Emotional Needs of Gifted Children: ギフテッドの社会・感情的ニーズのサポート) を設立した¹¹アメリカの Webb は、ギフテッドの特性と、そこから起こり得る問題について述べている¹²。それらの特性や問題を見ていくと、ASD や ADHD といった発達障害にみられる特性と類似している点が多くあることが分かる。それについて、次頁の表 1 に示す。類似する点には著者が下線を付した。

表 1 に示すように、Webb が指摘するギフテッドの特性とそこから起こり得る問題の中には、ASD や ADHD にみられる特性や特別なニーズと類似する点が含まれている。例えば ASD については、職場で孤立する、自分のやり方に固執する、人の気持ちを理解するのが苦手、変化に激しく抵抗する、応用がきかない、社会的に孤立する、1 人で遊ぶのが好き、友人関係の欠如、ある対象に異常に熱中する、教師へのしつこい質問、屁理屈を言う、頑固である、選択肢が柔軟でない、などの特性と類似している。また ADHD については、動き回る、予測や考えなしに行動をおこす、人の話が聞けない、人と口論になりやすい、面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える、指示に従わず、やるべき仕事を最後までやり遂げない、精神的な努力を続けなければならない課題 (学校での勉強や宿題など) を避ける、じっとしていない、又は何かに駆り立てられるように活動するなどの特性と類似している。これは、ギフテッドと認識された子どもの中の ASD や ADHD が、もしくは ASD や ADHD と認識された子どもの中の才能が見逃され、適切な補償を受けられない危険性を示唆している。

表1 ギフテッドの特性及び起こりうる問題と ASD, ADHD との共通性の一覧

特性	起こりうる問題	ASD	ADHD
幅広い語彙。高度で広範な情報。	言葉を操作する。学校やピアとの退屈。		
自己と他者への高い期待。	偏狭な道徳性。うつ状態になる可能性がある。		
感受性、共感。他人に受け入れられることを望む。	批判やピアの拒絶に対する感受性。		
高いユーモアのセンス。	ピアがユーモアを誤解している可能性がある。注目を集めるために「クラスの人気者」になることがある。		
独立している。個別の作業を好み、インプットを頼る。不服従。	親やピアを自己の中で拒否する可能性がある。	○	
知りたがる。	当惑させるような質問をする。過剰な期待をする。	○	
因果関係を求める。	不明/非論理的な領域(例えば、伝統や感情)を嫌う。	○	
真実、公平、フェアプレーを強調する。	人道的な懸念についての心配。	○	
物や人を整理しようとする。	複雑なルールを構築し、多くの場合偉そうに見える。	○	
強い集中。関心のある分野における長い注意時間と永続性。	その間は業務や人を無視する。中断に抵抗し頑固である。	○	○
内発的動機づけ。	強い意志を持つ。管理に抵抗する。	○	○
情報を迅速に保持する。問題解決を楽しむ。	他人にいらいらする。基本的なルーチンを嫌う。		○
クリエイティブ/独創的。物事の新しい方法を好む。	破壊的で調和を乱すと見られるかもしれない。		○
高いエネルギー、覚醒、意欲。	無活動に対する欲求不満。活動過多に見られることがある。		○
多様な興味や能力。汎用性。	無秩序な散在が表れることがある。時間不足にイライラする。		○

James T. Webb(1994)Nurturing Social-Emotional Development Of Gifted Children, http://www.kidsource.com/kidsource/content2/social_development_gifted.html (2013年11月27日参照),

○：類似している(ASDの特性とニーズの類似に関する参考文献³¹⁾⁴¹⁾⁵¹⁾⁶¹⁷、ADHDの特性とニーズの類似に関する参考文献⁸¹⁾⁹²⁰(による)

ギフテッドと ASD はともに極端な関心などを示すことから、2つの類似については多くの臨床例やケーススタディがある。しかも診断を見逃され介入が無かった場合、ASD における社会的相互作用における困難性とギフテッドにおける知的水準におけるピアの不足によって社会・情緒的な問題がより大きくなる²¹。ADHD についても、才能が障害を覆い隠した場合、注意の問題や白昼夢、社会性の未熟さによってギフテッドの自己概念に消極的な影響を引き起こす²²。

このように、ASD と ADHD はギフテッドと類似する特性を持ち、それと同様に類似するニーズを持っている。そして2Eであるにも関わらず高度な知的能力によって障害が見逃されてしまった場合適切な補償を受けることができず、社会・情緒的な発達や自己概念に悪影響を及ぼす。ギフテッドの持つ特別な教育的ニーズを補償するためには、2Eの子どもたちがも

つ特別な教育的ニーズを把握し、適切な支援を行っていくことが必要である。

3.2 2Eが持つ特別な教育的ニーズ

3.2.1 ギフテッドと 2E(ギフテッド/ADHD)が持つ特別な教育的ニーズの相違点

ADHDはその行動特性にギフテッドとの多くの共通点があり、判別が困難と多くの研究者が指摘している。具体的には、攻撃性、完璧主義、好奇心、イライラなどがADHDの指標と間違われるといわれている。これに加え創造的なギフテッドには反抗や過活動、理屈っぽさなどが見られる²³。WebbはADHDとギフテッドが示す動作は非常に類似していると述べる。以下の表2にWebbがあげるADHDとギフテッドの類似した動作を示す。また、それらの相違する点には著者が下線を付した。

表2 ADHDとギフテッドの類似する動作

ADHDに関連する動作(BARKLEY, 1990)	ギフテッドに関連する動作(WEBB, 1993)
ほとんどすべての状況下で注意の持続が不十分	特定の状況下での乏しい注意力、退屈、空想
結果がすぐにでない課題における持続性の低下	無関係のように見える課題における持続性の低い寛容
衝動性、遅延性の満足の乏しさ	知性の発達より遅れた判断力や思慮
社会的な文脈における行動規制または禁止のコマンドの遵守における障害	権威に対する闘争
規則や規制に沿うことが難しい	ルールや伝統、習慣に疑問を抱く

James T. Webb, Diane Latimer(1993)ADHD and Children Who Are Gifted, <http://www.gifted.uconn.edu/siegle/tag/Digests/522.html> (2013年11月27日参照).

表2に示したように、ギフテッドとADHDの動作は類似している。しかし、動作は類似していても、それが表れる条件や対象に相違点がある。例えば、注意力の問題がおこる条件では、ADHDは課題完成までの時間の不適當さであるのに対してギフテッドは課題の内容の不適當さが要因となっている。ヴァージニア大学准教授であるKalbfleischもギフテッドの注意力に関するニーズについて、注意の持続の問題だけでなく、本質的にやりがいのないタスクに対して適切に注目することができないとしている。さらに、それにも関わらず、そのようなタスクは典型的に学校で必要とされていると述べている²⁴。

このように、類似したニーズが表れていてもその要因は異なる可能性があるため、適切な補償をするためにはギフテッドとADHDはより慎重にみていく必要がある。さらに、2E(ギフテッド/ADHD)である子どもにとって、不適切なタスクは注意の問題を加速させる。特別な教育的ニーズとして、知的な発達にあった課題の提供に加えて、適切な長さの時間で完了する課題の提供などが必要である。

また、Barkleyによると、ADHDの子どもは、同年代より2～4年遅れた社会・情緒的発達をする傾向にあり、2E(ギフテッド/ADHD)も例外ではないとしている²⁵。MaureenもADHDの

ギフテッドは、その社会・情緒的な未熟さに対処するための介入が必要であると述べる²⁶。

3.2.2 2E(ギフテッド/ASD)がもつ一般能力と社会性の相違

コニー・ベリン・アンド・ジャクリーヌ・N・ブランク国際ギフテッド教育・能力開発センターが出している『専門家のための才能と自閉症のパラドクスに関する情報(The Paradox of Giftedness and Autism, Packet of Information for Professionals : PIP)』には、ASDとギフテッドの診断の両方を持つ子どもの一般能力と社会性の発達の非同期性に関する研究が以下のように、報告されている。

対象はASDとギフテッドの両方の診断をもつ子ども18人であり、年齢は6～17歳、うち小学生が14人、中学生が2人、高校生が2人であった。研究に使われた検査紙は知的能力の発達を測る指標としてWISC-IV、社会性を測る指標としてVineland IIが使われている。また、ギフテッドの知的能力を表すものとして一般能力指標(GAI)を使用している。一般能力指標とはWISC-IVが内包する4つの指標のうちVCI(言語理解指標)とPRI(知覚推理指標)の値から算出する指標である。社会性を表すものとしてはVineland IIの社会性領域の数値に着目している。その結果を以下の図1に示す。

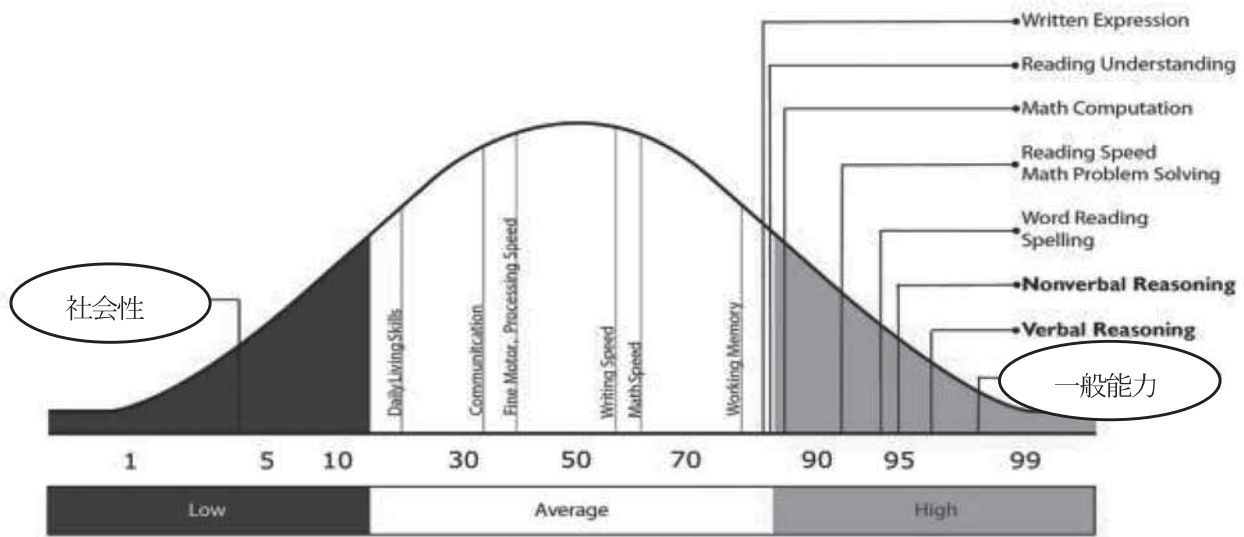


図1 2E(ASD/ギフテッド)の一般能力と社会性を示した図

Susan G. Assouline, Megan Foley Nicpon, Nicholas Colangelo, Matthew O' Brien(2008)

The Paradox of Giftedness and Autism, Packet of Information for Professionals (PIP) - Revised (2008), The Connie Belin & Jacqueline N. Blank International Center for Gifted Education and Talent Development The University of Iowa College of Education.

検査によって測られた2E(ASD/ギフテッド)の一般能力と社会性の結果から、一般能力はいずれも高い水準であったにも関わらず、社会性領域については平均6パーセントイルであ

ったことが明らかとなった。また、Vineland IIの他の領域の結果から、他領域である言語領域は平均50パーセントイル、日常生活スキルは平均47パーセントイルといったように平

均のスコアが見られたとある²⁷。

このことから、ASDを持つギフテッドの能力にはアンバランスがあり、とくに社会性に対して支援が必要ということが分かる。また、言語領域や日常生活スキルは平均の値であることから、学校教育においては言語領域や日常生活スキルと社会性との非同期性を意識して子どものニーズを把握する必要がある。

4. 考察

第一に、ギフテッドの特性やニーズは、ADHDやASDといった障害と高いIQのいずれに起因するかが弁別しにくく、双方が見逃される危険性があることが分かった。よって、ギフテッドと障害両方の可能性を捉える視点が必要となる。第二に、2Eが持つ特別な教育的ニーズについて明らかにした。2E(ギフテッド/ADHD)は、類似する行動を示しているにもかかわらずどのような条件によって起こっているかが異なるため、課題や指示の出し方等を工夫する必要がある。また通常より高い知的発達に反して通常より低い社会・情緒的発達を併せもつ可能性があるため、社会・情緒的発達を補う支援も必要である。2E(ギフテッド/ASD)は、通常より高い知的能力と通常の言語、生活能力の発達と合わせて、通常より低い社会性を併せもって可能性があるため、社会・情緒的ニーズに対する補償の教育の試行が必要である。加えて、ギフテッドにおける知的発達水準のピアの不足がその困難性を加速させる可能性があることにも配慮する必要がある。今後のギフテッドに対する教育では、学習面の支援に加えて、2Eのもつ特別な教育的ニーズを考慮した補償の機能を包括した教育実践が望まれる。

註・引用文献

- 1 Poul Nissen & Sebastian Lemire, The Danish Student Giftedness Checklist.
- 2 松村暢隆 (2012)第一章発達障害の特別支援に活かす才能教育の理念,松村暢隆・野添絹子・北川圭一・水野証・小倉正義著『認知的個性(CI)の発見と学習支援の基礎・実践的研究—すべての子どもの得意・興味を見つけて伸ばし、活かして苦手を補う—』日本学術復興会。
- 3 S.M. Moon (2002) Gifted children with attention-deficit/hyperactivity disorder. In Neihart, S.M. Reis, N.M. Robinson, & S.M. Moon (Eds.), the social and emotional development of gifted children: What do we know? (pp.193-201). Waco, TX: Prufrock Press.
- 4 NAGC HP: <http://www.nagc.org/>(2013年11月27日参照)
- 5 Colangelo, N. (2002). Counseling gifted and talented students (RM02150). Storrs, CT: The National Research Center on the Gifted and Talented, University of Connecticut.
- 6 杉山登志郎著(2009)第一章 発達障害から発達凸凹へ, 杉山登志郎・岡南・小倉正義著『ギフテッド 天才の育て方』学研教育出版, pp.8-25.

- 7 松村暢隆(2003)『アメリカの才能教育—多様なニーズに対応する特別支援』東信堂。
- 8 松村暢隆 (2010)13 発達障害と才能.岩永雄也・松村暢隆編『才能と教育-個性と才能の新たな地平へ-』財団法人放送大学教育復興会, pp.188-199.
- 9 小倉正義(2009)第八章 2E の子どもへの教育,杉山登志郎・岡南・小倉正義編『ギフテッド天才の育て方』学研教育出版, pp.134-150.
- 10 前掲5.
- 11 Great potential press guiding gifted learners HP. <http://www.greatpotentialpress.com/authors/james-t-webb-ph-d-abpp-cl>(2013年11月27日参照).
- 12 James T. Webb(1994)Nurturing Social-Emotional Development Of Gifted Children, http://www.kidsource.com/kidsource/content2/social_development_gifted.html(2013年11月27日参照).
- 13 クリストファー・ギルバーク著・田中康雄監修・森田由美訳(2003)『アスペルガー症候群がわかる本 理解と対応のためのガイドブック』明石書籍。
- 14 田中康雄(2011)『もしかして私、大人の発達障害かもしれない?!』株式会社すばる舎。
- 15 杉山登志郎(2005)『アスペルガー症候群と高機能自閉症青年期の社会性のために』学研のヒューマンケアブックス。
- 16 辻井正次(2010)『アスペルガー症候群 大人の生活完全ガイド』保健同人社。
- 17 文部科学省『児童・生徒理解に関するチェック・リスト』www.oecj.jp/center/index.cfm/12.../20090105-140720.pdf.
- 18 ラッセル A バークレー(1995)Thinking charge of adhd: The Complete, Authoritative Guide for Parents, 海輪由香子訳, 山田寛監修(2000)バークレー先生の ADHD のすべて, 株式会社ヴォイス。
- 19 田中康雄(2001)『ADHDの明日に向かって認め合い・支え合い・赦しあうネットワークをめざして』星和書店。
- 20 ADHD-RS 質問項目。
- 21 Susan G. Assouline, Megan Foley Nicpon, Nicholas Colangelo, Matthew O' Brien(2008) The Paradox of Giftedness and Autism, *Packet of Information for Professionals (PIP) - Revised (2008)*, The Connie Belin & Jacqueline N. Blank International Center for Gifted Education and Talent Development The University of Iowa College of Education.
- 22 前掲3.
- 23 Maureen Neihart(2003) Gifted Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder (ADHD) <http://www.ericdigests.org/2005-1/gifted.htm>, (2013年11月27日参照).
- 24 Kaufmann, F., Kalbfleisch, M. L., & Castellanos, F. X. (2000). Attention Deficit Disorders and gifted students: What do we really know? (RM00146). Storrs, CT: The National Research Center on the Gifted and Talented, University of Connecticut.
- 25 前掲3.
- 26 前掲28.
- 27 前掲26.

